

看護を創造し探究する領域

ナラティブ、ケアリング、研究方法の概念を学び、経験を通して看護の意味づけを行うことで、“看護であるものと看護でないものを見分ける眼”を養い、自己の看護観を追究していく力を養う

2年次 前期	ケアリング論	講師名	本江 朝美	必修	1単位 15時間
科目のねらい	看護の核であるケアリングの意義を深く認識し、ケアを受ける人の尊厳と個別性を尊重する倫理的な基盤と態度を確立する。その人固有の意味世界に関心を向け、理解しようとする洞察力を養い、倫理的判断を伴うサイエンス（科学的な知識・技術）とアート（人間的な関わり）の統合としてのケアリング実践の礎を築く。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	ケアリングへの誘い ケアの本質を問う	〔授業準備〕 自身の実習体験をもとに、ケアするとはどういうことかについて考えてくる
2	ヒューマンケアリングの世界	〔授業準備〕 自身の実習体験の中で、科学的知識と人間的関わりの両方が必要と感じた場面を想起しておく
3	ケアが生まれるとき ケアリングの意識（存在と現前）	〔授業準備〕 日常生活の中で自分自身を癒し調えるケアを意識的に実践し、その体験から得られた気づきを簡単にまとめてくる
4	その人にとっての意味の世界 声なき声を聴く	〔授業準備〕 実習や日常生活で、相手が言葉にしなかった思いを感じ取った経験を振り返り、簡単にまとめてくる
5	10CaritasProsess®（慈愛のプロセス） 奇跡の可能性を拓く	〔授業準備〕 実習での関わりを振り返り、意図的・意識的に心がけたことや落ち着いて関わろうとした工夫を簡単にまとめてくる
6	ケアリング実践 体験ワーク：聴くこと・触れること	〔授業準備〕 誰かに話を聴いてもらったり、優しく触れられたりした経験を振り返り、その時に感じたことをもとに「聴くこと」「触れること」の意味について考えてくる。 ※フェイスタオル（1枚）を持参する
7	ケアリング実践 【演習】 体験ワーク：神聖な行為としての触れるケア	〔授業準備〕 ヒューマンケアリング理論における「その人にとっての世界の理解」や「ケアリングヒーリング様式」等について復習し、前回の授業での自身の体験（心の動きや感じたこと）をもとに、ケアリングの意味についてまとめてくる（700～800時程度）
8	ケアリング実践 まとめ 体験したケアリングの現象と学びの記述・共有	〔復習〕 ケアリングの体験ワークにおける現象を明らかにし、理論と照らし合わせた上で、学びの総まとめをレポートする（第7回の授業準備でまとめた内容をもとに、体験ワークで生じた現象やそこから得た学びを追記し、理論と照らし合わせながら、ケアリングについての学びを総合的にレポートする）。

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	ケアリングはまず自身の声なき声を聴くことから始まります。本授業ではワークでの自身の心の動きへの気づきと言語化を大切にします。他者への尊重と守秘を徹底し、気づきを理論と繋げて専門的な「知」へと深めてください。また、自分を慈しみ、自身のペースを尊重して参加してください。
評価方法	「ケアリングの理論と現象をつなぐ」というテーマで、学びの総まとめを行う。授業中の体験ワークの現象を言語化し、理論と結びつけて考察することを中心にまとめる。詳細は授業時に説明する。
テキスト	なし
参考文献	ワトソン21世紀看護論 日本看護協会出版会 ワトソン看護論 ヒューマンケアリングの科学 医学書院
備考	

1年次 全期	ナラティブⅠ	講師名	益井 明子	必修	1単位 15時間
科目のねらい	ナラティブとはどのようなものか理解する。そして、自己の経験を他者に語ることをきっかけとして自ら内省し、自己に気づいていく試みが、看護にとっていかなる意味を持つのか理解する。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	ナラティブとは	
2	「ナラティブ」の実践 ①	
3	「ナラティブ」から活写へ ①	
4	「内省」から「気づき」へ	
5	「ナラティブ」の実践 ②	
6	「ナラティブ」から活写へ ②	
7	自己の「気づき」	
8	ナラティブと看護 まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	本科目におけるナラティブは、看護学生らが臨床での自らの経験をストーリーとして語ることを意味しています。これまで経験してきた「忘れられない場面」を語り合うことによって、自分自身の経験の意味を問い直す時間となります。うまく言葉にならないこともたくさんあると思います。心に残っていることをどのような表現でも良いので、語り合っていきましょう。
評価方法	レポート評価 100点
テキスト	吉田みつ子：看護技術 ナラティブが教えてくれたこと 医学書院
参考文献	随時提示
備考	

2年次 全期	ナラティブⅡ	講師名	専任教員 益井 明子	必修	1単位 30時間
科目のねらい	2年次における実習体験について、ナラティブを用いて「語る」、「聴く」を 実践する。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	ナラティブとは①	ナラティブⅠでの学習 を想起して臨む。
2	ナラティブとは②	
3	ナラティブの実践① ・自分の心に残った1場面をナラティブを用いて 「語る」、「聴く」を実践する	看護援助論実習での 自分の心に残った場面 を想起する
4		
5		
6		
7	ナラティブの実践② ・自分の気がかりな場面をナラティブを用いて 「語る」、「聴く」を実践する	発達看護論実習Ⅰでの 自分の気がかりな場面 を想起する
8		
9	ナラティブの実践③ ・自分の心に残った1場面をナラティブを用いて 「語る」、「聴く」を実践する	発達看護論実習Ⅰでの 自分の心に残った場面 を想起する
10		
11		
12	ナラティブの実践④ ・自分の心に残った1場面をナラティブを用いて 「語る」、「聴く」を実践する	こころを理解する実習 での自分の心に残った 場面を想起する
13		
14		
15	まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の 留意点	臨地実習で経験したことを語り合うことで、自分自身が経験したことの意味を振り 返り「語る」「聴く」を実践していく演習になります。 「科目：ナラティブⅠ」を踏まえ、ナラティブを活用し、自分の感情、思考、意図 に向き合いながら自分の言葉で語り、メンバーの語りを受け止めながら看護の意味 を確かめていきましょう。
評価方法	出席状況で評価（初回授業で評価基準を示す）
テキスト	吉田みつ子：看護技術 ナラティブが教えてくれたこと 医学書院 内山孝子：本当の看護へ“看護ナラティブ（物語）”から学ぶ臨床の知と技 看護 の科学新社
参考文献	川島みどり：看護を語ることの意味ーナラティブに生きてー 看護の科学社 金井一薫：実践を創る 新・看護学原論 ナイチンゲールの看護思想を基盤として 現代社
備考	

3年次 全期	ナラティブⅢ	講師名	専任教員 益井 明子	必修	1単位 30時間
科目のねらい	3年次における実習体験について、ナラティブを用いて「語る」「聴く」「書く（活写）」を実践し看護の意味を考える。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	ナラティブの実践① ・自分の気がかりな場面をナラティブを用いて、「語る」「聴く」「書く（活写）」を実践し看護の意味を考える。	健康段階別看護論実習Ⅰでの自分の気がかりな場面を想起する
2		
3	ナラティブの実践② ・自分の心に残った1場面をナラティブを用いて、「語る」「聴く」「書く（活写）」を実践し看護の意味を考える。	健康段階別看護論実習Ⅰでの自分の心に残った場面を想起する
4		
5		
6	ナラティブの実践③ ・自分の心に残った1場面をナラティブを用いて、「語る」「聴く」「書く（活写）」を実践し看護の意味を考える。	地域・在宅看護論実習Ⅰでの自分の心に残った場面を想起する
7		
8	ナラティブの実践④ ・自分の心に残った1場面をナラティブを用いて、「語る」「聴く」「書く（活写）」を実践し看護の意味を考える。	発達看護論実習Ⅱでの自分の心に残った場面を想起する
9		
10	ナラティブの実践⑤ ・自分の気がかりな場面をナラティブを用いて、「語る」「聴く」「書く（活写）」を実践し看護の意味を考える。	健康段階別看護論実習Ⅱでの自分の気がかりな場面を想起する
11		
12	ナラティブの実践⑥ ・自分の心に残った1場面をナラティブを用いて、「語る」「聴く」「書く（活写）」を実践し看護の意味を考える。	健康段階別看護論実習Ⅱでの自分の心に残った場面を想起する
13		
14		
15	まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	グループになり、臨地実習で経験したことを語り合うことで、自分自身が経験したことの意味を振り返り、「語る」「聴く」「書く（活写）」を実践していくことで看護であること看護でないことを考えていく演習になります。 「科目：ナラティブⅠ・Ⅱ」での経験を踏まえ、ナラティブを活用し、自分の感情、思考、意図に向き合いながら自分の言葉で語り、メンバーの語りを受け止めながら看護の意味を確かめていきましょう。
評価方法	出席状況で評価（初回授業で評価基準を示す）
テキスト	吉田みつ子：看護技術 ナラティブが教えてくれたこと 医学書院 内山孝子：本当の看護へ“看護ナラティブ（物語）”から学ぶ臨床の知と技 看護の科学新社
参考文献	川島みどり：看護を語ることの意味ーナラティブに生きてー.看護の科学社 金井一薫：実践を創る 新・看護学原論 ナイチンゲールの看護思想を基盤として 現代社
備考	

4年次 全期	ナラティブⅣ	講師名	専任教員 益井 明子	必修	1単位 15時間
科目のねらい	4年次における実習体験について、ナラティブを用いて語ることを意味を考え、「語る」「聴く」「書く（活写）」を実践し、看護の意味を確かめる。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1 (1h)	ナラティブの実践① ・自分の心に残った1場面をナラティブを用いて、看護の意味を確かめる。	健康段階別看護論実習Ⅲ、地域・在宅看護論実習Ⅱ、発達看護論実習Ⅲでの自分の心に残った場面を想起する
2 (2h)		
3 (2h)		
4 (1h)	ナラティブの実践② ・自分の心に残った1場面をナラティブを用いて、看護の意味を確かめる。	テーマ別看護実習での自分の心に残った場面を想起する
5 (2h)		
6 (2h)		
7 (1h)	ナラティブの実践③ ・自分の心に残った1場面をナラティブを用いて、看護の意味を確かめる。	職場適応統合看護実習での自分の心に残った場面を想起する
8 (2h)		
9 (2h)		

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	臨地実習で経験したことを語り合うことで、自分自身が経験したことの意味を振り返り、看護であること看護でないことを考え「書く（活写）」を行い、自己の体験を「語る」「聴く」を実践していく演習になります。 ナラティブにより、看護であること看護でないことを物語り、臨地実習での経験とこれまで学習してきた内容とを連動させ、看護であることの意味を考えていきましょう。
評価方法	出席状況で評価（初回授業で評価基準を示す）
テキスト	吉田みつ子：看護技術 ナラティブが教えてくれたこと 医学書院 内山孝子：本当の看護へ“看護ナラティブ（物語）”から学ぶ臨床の知と技 看護の科学新社
参考文献	川島みどり：看護を語るの意味ーナラティブに生きてー.看護の科学社 金井一薫：実践を創る 新・看護学原論 ナイチンゲールの看護思想を基盤として.現代社 佐藤紀子：看護師の臨床の知ー看護職生涯発達の視点からー 医学書院 ドナルド・ショーン：省察的実践家とは何かープロフェッショナルの行為と思考. 鳳書房 ドナルド・ショーン：専門家の知恵ー反省的実践家は行為しながら考える
備考	

4年次 後期	ナラティブ応用看護論演習	講師名	専任教員 益井 明子	必修	1単位 15時間
科目のねらい	ナラティブで確かめられた看護の意味を「看護実践への提案」として、実践の場への応用を考え提案することで、自分自身の看護観と看護の知（臨床知の継承）を深めるとともに看護実践力を養う。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	私たちの知の財産 ・「看護実践への提案」について ・演習への取り組み	これまでの実習で経験してきた自分の心に残った場面を想起する
2	看護実践への提案書 作成①	
3	看護実践への提案書 作成②	
4	看護実践への提案書 作成③	
5	看護実践への提案書に基づく実践演習①②③	
6		
7		
8 (1h)	看護実践への提案書 評価・修正 まとめ	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	ナラティブⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳにより確かめられた看護の意味を臨地実習での知の財産として形にして、チームビルディングを行い、「看護実践への提案」として実践の場への応用を考え提案します。 自分が考える看護の本質をどのような形でもよいので表現してみましょう。 たとえば「気持ちのいい足浴の方法を提案します！！」など、これまで確かめられたことを土台に、方法論にとどまらず看護の本質に迫った「看護実践への提案」を期待します。「看護実践への提案」は、プレゼンテーション技法を用いて自己の体験を他者に語り、自分自身の看護観を深めていきます。
評価方法	出席状況で評価 （初回授業で評価基準を示す）
テキスト	吉田みつ子：看護技術 ナラティブが教えてくれたこと 医学書院 内山孝子：本当の看護へ“看護ナラティブ（物語）”から学ぶ臨床の知と技 看護の科学新社
参考文献	川島みどり：看護を語ることの意味ーナラティブに生きてー 看護の科学社 佐藤紀子：看護師の臨床の知ー看護職生涯発達の視点からー 医学書院 ドナルド・ショーン：省察的实践家とは何かープロフェッショナルの行為と思考、鳳書房 ドナルド・ショーン：専門家の知恵ー反省的实践家は行為しながら考える 鈴木敏江：看護師の実践力と課題解決力を実現するポートフォリオとプロジェクト学習 医学書院
備考	

3年次 全期	研究方法論	講師名	専任教員 外部講師	必修	2単位 30時間
科目のねらい	看護における研究の意義について理解し、研究方法、研究計画書立案の基礎的知識を学ぶ。学習を通して幅広い視野で看護を探究する能力を養う。 研究計画書の基本を学び、4年次に実施するテーマ別看護実習に向けて研究テーマのイメージを持つ。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	看護研究の目的と意義	
2	研究方法の基礎知識① ・質的研究（事例研究）	
3	研究方法の基礎知識② ・量的研究	
4	研究方法の実際① ・研究計画（リサーチクエスションの明確化）	
5	文献検索と文献クリティーク① ・文献検索方法	
6	文献検索と文献クリティーク② ・文献クリティーク 批判的吟味	
7	研究方法の実際② ・研究計画（研究目的、研究方法、研究デザイン、データの収集・分析、倫理的配慮）	
8	研究方法の実際③ ・研究の実施～論文作成（研究結果の分析・解釈、論文作成の基礎）	
9	研究計画の検討①	ゼミグループでの意見交換に備え、自分の考えを伝えるための準備をする
10	研究計画の検討②	
11	研究計画の検討③	
12	研究計画の検討④	
13	研究計画の検討⑤	
14	研究計画の検討⑥⑦	
15	まとめ 研究計画書発表	

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	看護研究に必要な基礎的知識を学習した上で、研究計画書を作成します。 4年次に実施するテーマ別看護実習にむけて自分自身のテーマのイメージを持ち、研究計画の検討はゼミナール方式で実施します。主体的に準備を行い相談、指導を受けます。ゼミグループの学生間での主体的かつ活発な意見交換を期待します。
評価方法	評価表に基づき評価 100点（詳細は授業時に説明）
テキスト	系統看護学講座 看護研究 医学書院
参考文献	随時提示 山崎茂明著：看護研究のための文献検索ガイド 医学書院
備考	

4年次 全期	研究の実際	講師名	専任教員	必修	1単位 30時間
科目のねらい	テーマ別看護実習を踏まえ、事例研究論文の作成に取り組むことで、自己の看護実践の振り返りを通して看護を探究する。				

回数	授業計画	授業準備と復習
1	オリエンテーション ・当該科目での学び方、取り組み	ゼミナール方式で実施、計画的・主体的に準備を行い相談、指導を受けられるよう準備をして臨むこと
2	研究指導①	
3	研究指導②	
4	研究指導③	
5	研究指導④	
6	研究指導⑤	
7	研究指導⑥	
8	研究指導⑦	
9	研究指導⑧	
10	研究指導⑨	
11	研究発表準備	
12	研究発表①②③④ まとめ	
13		
14		
15		

履修要件	授業科目の学修の評価等に関する規程 第2条のとおり
学習上の留意点	ゼミナール方式で実施します。主体的に準備を行い相談、指導を受けます。ゼミグループの学生間での主体的かつ活発な意見交換を期待します。
評価方法	評価表に基づき評価 100点 （詳細は授業時に説明）
テキスト	系統看護学講座 看護研究 医学書院
参考文献	随時提示 山崎茂明著：看護研究のための文献検索ガイド 医学書院
備考	

